



物 事には多くの選択肢と可能性が秘められています。その選択肢を知らないままの人やどうすればその選択肢を選べるのかかわからず諦める人もいます。ただ闇雲に勉強するというよりその先に大きな可能性があることを未来の大人たちに指し示すことも、親や大人たちの役目なのではないでしょうか。

埼玉県の鴻巣市出身で一時期は東京の自由ヶ丘や川越などで生活をし、2009年の3月にときがわ町へ移住してきた関根雅泰さん。子どもにとっていい環境の学びの場を考え、一番上のお子さんが小学校に上がる前に移住先を決めたかったそうです。そんな関根さんにこの地域での学びや今後の願いについてお話をうかがいました。

忙しいに流される毎日に疑問符がつき手放した生活

ときがわ町に移住する前は川越市に住んでいましたが、当時の私は東京に勤めており多忙な毎日で帰宅するのは深夜。平日は子どもを顔を見れませんでしたし、休日は疲れからグダーとしていて、「本当にこんな生活でいいのか」と考え始めていました。もともと妻とは子どもを育てるなら田舎と決めていたので、と

が学べることは移住してきてよかったと本当に思います。

日本最大の情報発信地と近いことを上手に活かしてほしい

ときがわ町は田舎ですが、実際は東京へ行くのにも交通機関も整っていますし、便利な場所でもあります。私が考えるのに、情報発信という面では東京は素晴らしい場所です。社会人としての学びの場としても影響力は大きいと思います。そんな都心にも近く、すぐ行けるというのはとても大きなメリットだと思います。そういったことを踏まえたうえで、子どもたちにはこの町という小さな枠に捉われないで、いくらでも学びの世界は広がっているという可能性を伝えていきたいです。将来どうなりたいか、どうなるかわかりませんが、いろんな働き方がある、いろんな選択肢があることを学んでほしい。9時から17時の会社勤務だけがここで働くことではなく、せっかく大都市の東京に近いのだから、上手に学びの工夫を吸い取ってほしいと思います。

自分の子どもたちには学びたいことがあるなら、ずっとこの町にいたくてもいいと思っていますが、せっかくこの地域に土地を購入したので、誰かに受け継いでほしいというのは、親心の本音でもありますかね(笑)。

未来の日本を担う子どもたちに最高の学びの場を提供してあげたい

にかく田舎へという強い想いから2005年に会社を退職し、まずは埼玉県の寄居町でアパート暮らしを始めました。そんな中、2009年の春にときがわ町で土地が空いたという情報を聞きつけ、まずは妻が偵察に。正直女性って現実味があって見る目も厳しいじゃないですか。そんな彼女が一度見ただけで「良い」と言っていたこともあり、その後私もその土地を見て、素晴らしい景色と環境だったので、その土地を購入しました。私もそうでしたが、埼玉県民でもときがわ町ってあまり知らない人も多いのですが、こんな素晴らしい場所があるんだということを知って知りましたね。

木の学校に隠された素晴らしいメリット

ときがわ町には物理的な教育環境の良さがあります。ときがわ町の保育園・幼稚園・小学校・中学校は今時珍しく内装が木質化されています。地元の材木で、木のぬくもりを日常的に肌で感じて取れる環境は、なかなか都心では味わえないと思います。また、子どもだけでなく働いている教員たちにも大きな影響力があります。鉄筋校舎で教えている教員と木造校舎で学んでいる子どもを教えている教員を比較すると、木造校舎の教員の方が「子どもたちは落ち着いている」と評価されるという研究結果も発表されています。裏を返せば、子どもたちは教員の鏡でもあるので、教員自身が落ち着いているのではないかと言われています。教員からもりある温かい環境で子どもたちが



関根雅泰さん
埼玉県ときがわ町在住。奥様とお子さん4人の6人家族。今までの経験を活かし、人材育成や企業支援、地域活性事業を行う会社を2社経営をしている。日々未来を担う若者たちを育成している。

